

# 平成 30 年度 学校経営方針

京都市立錦林小学校

【平成 30 年度 学校教育の重点 より】

## ◎京都市の目指す子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」

—3つの姿—

- ・ 京都が育んできた伝統と文化に立脚し、広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生や社会を創造する子ども
- ・ 学校教育をはじめ様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たす子ども
- ・ 多様な他者とともに生き、学び合い、人権文化の担い手となる子ども

## ◎学校教育において重視する視点

■子どもの主体性と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

☆小・中学校段階における「自ら学ぶ力」

学ぶことに興味や関心を持ち、自己の進路や将来の生き方と関連付けながら、目標実現への見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返って改善することのできる力

☆小・中学校段階における「自ら律する力」

地域・社会との関わりの中で、他者への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感しながら、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断をすることのできる力

■カリキュラム・マネジメントの視点のもと、PDCAを意識し、教育課程に基づき、組織的かつ計画的に日々の教育活動の質の向上を図り、子どもの姿や地域の状況に応じた創意あふれる取組を展開する

—小・中・小中学校（義務教育学校）—

- 1 学習意欲を高める授業を通して、自ら学びに向かう力を育む
- 2 毎日の家庭学習により、主体的な学びにつながる自学自習の習慣化を図る
- 3 自他を大切にすることを育成する
- 4 「公共の精神」に基づく態度を育成する

◎学校運営の柱～全教職員が進める確かな学校教育～

- 1 子どもの命を守りきる
- 2 すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を進める
- 3 教育者としての職責を自覚し、専門性を高めるとともに、働き方改革を進める
- 4 校種間連携・接続を推進する
- 5 「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援を行う
- 6 保護者・地域と連携・協働した取組を推進する
- 7 関係機関など社会と連携した総合的・継続的な支援を展開する

◎「生きる力」（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」）を育むにあたって、  
学校の教育活動のすべてを通して、「資質・能力の三つの柱」を偏りなく育成する

「資質・能力の三つの柱」

- (1) 「何を理解しているか 何ができるか」：知識及び技能
- (2) 「理解していること・できることを どう使うか」：思考力，判断力，表現力等
- (3) 「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか」：  
学びに向かう力，人間性等

## 錦林小学校 学校経営方針

【校訓】 「実行力」

【学校教育目標】

「人との関わり・つながりの中で自分を高める 実行力の育成」  
～集団や地域での学びを、「なりたい自分」につなげる 強さを育てる～

他者と積極的に関わり、多様な見方・考え方に触れる  
よりよい集団の中で、協働し、豊かな経験を積み、自尊感情を育む  
地域の宝に触れ、そこに込められた人々の願いや思い、生き方を知る  
→自分を見つめ、解決すべき課題を見付ける（長所や短所に気付く）  
とともに、  
さらに高い目標を定め、自己実現を目指して努力を続ける「強さ」を育む

【目指す学校像】 目標に向かって努力することのよさが認められる学校  
よりよい人間関係を築く喜びが感じられる学校  
集団や地域への所属感にあふれる学校

【目指す子ども像】 「なりたい自分」を目指してがんばる子  
友だちのよさを認められる子  
集団や地域を大切にする子

【目指す教職員像】 一人一人の子どもを徹底的に大切にする教職員  
常に学び続け、互いに高め合う教職員  
共に働くことに喜びと誇りをもつ教職員

「子どもの姿で 信頼を得る学校」

【育成すべき資質・能力】

教科横断的な視点で、あらゆる教育活動の中で重点的に育成する

〔知識及び技能〕

自分にとって課題の解決に必要な知識及び技能を身に付ける

〔思考力、判断力、表現力等〕

課題を見だし、他者との関わりの中で出会う多様な考えを手がかりにして、その解決につなげる

〔学びに向かう力、人間性等〕

課題解決に積極的に取り組み、さらなる自己実現を目指す

### 【道徳教育重点目標】

(人や集団，社会との関わりを通して)  
自分を見つめ，よさを伸ばし，自己実現を目指して強く生きる子どもの育成

### 【重点内容項目】

A：希望と勇気，努力と強い意志

## ※具現化に向けて・・・「実行力」

- ① 重点化(効率化・優先順位・質の向上)が図られているか
- ② 取組のねらいや目的が明確になっているか
- ③ 見えにくくなっているものを 見過ごしていないか  
(数の少ないもの，声の小さいもの，形のないもの，都合が悪いもの，  
見慣れてしまっているもの，時間が過ぎたこと・・・)
- ④ 組織を意識して 協働しているか(組織力を高める)
- ⑤ あらゆる「リスク」を想定して 取組を進めているか

### 【基盤となるもの】人権教育

- 一人一人を徹底的に大切にす
- 自尊心(自己有用感・自己肯定感)を高める
- 自分・人・集団や社会を大切にす意識を育てる
- 一人一人の課題に対して，組織的に，適切な指導・支援を行う

### 知：校内研究の充実

- 学校教育目標，育成すべき資質・能力を基盤にしたカリキュラム・マネジメント(教科横断的なカリキュラムデザイン・日常的なPDCA・内外の教育資源の活用)
- 校内研究教科は「切り口」であって，研究のすべてではない →他教科への波及
- 重点をしぼって徹底させる取組

### 徳：道徳教育の充実

- 学校の教育活動全体を通じて，全教職員が行う道徳教育 →全体計画別業の活用
- 道徳教育重点目標 及び 重点内容項目の重視
- 道徳科の授業の充実と評価

## 体：子どもの命を守りきる教育の徹底

- 命の重み
- 安心、安全な学校づくり：教職員の危機管理能力・命を守り切る実行力
- 見逃しのない観察・手遅れのない対応・心の通った指導
- 保健教育の充実
- 食に関する教育（給食の重要性）
- 安全教育・防災教育

### 【支えるもの】

- ① 確かな学習集団をつくる
  - ・学びのルールの徹底
  - ・めあてとふりかえり
  - ・学習環境の整備と工夫
  - ・よさや違いが認め合える集団の風土
  - ・「所属感」を高める：「この集団にいて、よかった」

一つ一つの学級の確かな取組が、学年・学校全体の取組につながっている
  
- ② 錦林小学校教育の伝統を大切に
  - ・地域との連携を深める
    - 地域の宝を大切にし、人々の願いや思いを大切にする
    - 番組小学校としての歴史と伝統、誇り（平成31年に創立150周年を迎える）
    - 新洞小学校と錦林小学校の統合
  - ・保護者や地域の方々の「地域愛」「学校愛」に感謝し、子どもの学びにつなげる
    - 学校運営協議会　子どもの安全の見守り
  - ・国語教育、図書館教育、情報教育、キャリア教育等の積み上げを大切にする
  
- ③ 家庭との連携を強める
  - ・「子どもを中心にすえた」丁寧な関わりと適切な対応
  - ・家庭学習の内容の充実（学校・学年の統一と発達段階の考慮）
    - 目的の明確化と計画性　　自学自習の習慣形成
  - ・家庭へのはたらきかけと理解を得るための工夫

【これからのさまざまな教育課題に対応するために】

① 新たな3学期制の導入

見通しのある計画的な業務の遂行  
評価活動の充実

② 新学習指導要領の実施に向けて

全面実施：道徳科 総合的な学習の時間 特別活動  
移行措置の内容に注意  
校内伝達研修の重視  
「主体的・対話的で深い学び」  
「社会に開かれた教育課程」

カリキュラム・マネジメント →30年度の最重要課題

★校内におけるカリマネ研修・カリマネ表の作成

★学年を基本にしたカリマネ；カリマネ学年会の定例化（毎週月曜日）

★教務主任・研究主任を中心としたカリマネ：年間数回の研修

③ 組織力の強化

報告・連絡・相談の徹底 情報の共有  
組織的なリスクマネジメント・クライシスマネジメント  
危機感＝想像力  
初期対応（初動）の重要性  
情報が迅速に正しく共有されるシステム  
記録の重要性 複数対応 時系列の整理  
問題に対応できる一人一人の実行力  
指揮官のもと、同一方向に向かって動く組織力

④ 学び続ける教職員であるために：OJTの充実

○「京都市教員等の資質向上に関する指標」に照らした専門性、指導力の向上

校内研究を基盤にした力量向上の取組

校外における研修（Off-JT） 自己研鑽・研究会活動への参加（SD）

→校内への還元

校内「若手研」の実施

日常的なOJT

⑤ 働き方改革

限られた時間の中で、よりよいコンディションのもと、効率的で質の高い取組を目指す  
「教育活動の一層の充実のため、教職員が子どもと向き合う時間を確保し、いきいきと  
やりがいを持って働くことのできる環境をつくっていくため」

⑥ 安全で清潔、整理整頓の行き届いた環境づくり

危険な箇所はないか

不要な物がいつまでも置かれたままになっていないか

清掃が不十分な場所はないか

「ムダ」はないか・・・学校予算の適切な運用・既存資源の有効活用

⑦ 他校との連携 校種間連携

「六校会」：岡崎中ブロック 近衛中ブロックの連携

「9年間の学びと育ちの連続性」 「目指す子ども像の共有」

保幼小連携

白川総合支援学校との連携